

【野迫川村】

端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	1 4	1 3	1 2	1 2	1 3
② 予備機を含む 整備上限台数	1 6	1 5	－ 3	－ 3	－ 2
③ 整備台数 (予備機を除く)	2	1 3	0	0	0
④ ③ のうち 基金事業によるもの	0	1 5	0	0	0
⑤ 累積更新率	1	1 3 1	1 2 5	1 2 5	1 1 6
⑥ 予備機整備台数	0	2	0	0	0
⑦ ⑥ のうち 基金事業によるもの	0	2	0	0	0
⑧ 予備機整備率	1 5	1 6	0	0	0

(端末の整備・更新の考え方)

平成 3 0 年度に整備した学習用端末は、使用期間が 5 年を超えており更新時期を迎えている。令和 5 年度から毎年度 2 台の予備機を整備し、故障時は修理し使用している。令和 7 年度県域での共同調達により一斉に端末入替を計画している。令和 6 年度をピークとして児童生徒数の減少が見込まれることから、令和 8 年度以降は整備端末を予備機として使用する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○処分対象端末：1 4 台（使用期間が 5 年を超えているため）

○処分方法

- ・学習用端末を指導者用端末や校務用端末として使用：1 1 台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にも再使用・再資源化を委託：3 台

○端末のデータ消去方法

- ・購入業者を通じて処分事業者へ委託する

○スケジュール（予定）

令和 7 年 新規購入端末の使用開始、事業者へ使用済端末引渡し

【野迫川村】
ネットワーク整備計画

本村では、ネットワーク速度が確保できており、現時点では改善すべき点はない、定期的なアセスメントの実施等により、課題があれば改善に向けて新たに計画する

【野迫川村】
校務 DX 計画

本村では、平成30年度に学習用、指導者用端末を整備し、教師は学習指導用端末、校務用端末の2台を使用している。令和5年度に校務支援システムを導入したことにより、校務時処理が分離されたため、システムでの処理用としてさらに1台の端末を使用することとなった。令和7年度、県域でゼロトラスト化への移行に合わせて、本村でも一人一台端末の積極的な活用となるよう環境整備を図る。

教職員間での情報伝達手段として、グループチャットの積極的な活用により、教員それぞれが都合のいい時にいい場所で情報発信や確認することができる、また最新の情報を全員が共有し、教員同士のコミュニケーションの幅を広げていけるよう勧めていきたいと考える。

【野迫川村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

平成30年、本村においていち早く1人1台端末を実現してきた。当初、子ども達はもちろん教師側も端末の扱い方、効果的に活用した指導方法など分からないことばかりであったので、子ども達にはまず慣れ、興味関心を持って触れる、使えるような環境から、教師側は研修を積み、先進校を視察しながら1歩1歩取組を進めてきた。

そこからすでに年が経ち、授業や特別活動等において、どの学年もほぼ毎日、何らかの形で端末を活用して授業を行っている。また、他校との遠隔授業にも取り組み、交流を深めている。

新学習指導要領により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が提唱され、その実現に向けて学校としても取組や研修が本格化していくこととなるが、そのためには ICT の活用は不可欠になる。さらに、情報化が加速度的に進む社会に対応、適応していく資質・能力を育むためにも ICT の活用は大切なものとなる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」においては、ICT を活用し、1人1人の学習状況や理解度などを細かく把握することにより、よりその子に合ったアプローチをして学習効果を上げる。また、教師も含め周りの友達と積極的に関わり、意見を述べ合う中で自分の求める課題解決に繋げる。という主体的、対話的に学習が進められる子どもの育成を目指したい。また、極小規模かつへき地の学校としては ICT の活用により様々な学習の方法に出会えること、より興味関心を持って学習に取り組めることもねらいとしたい。

学校においてはこれまでの取組の成果を踏まえ、また、次の取組を進めることにより新しいステージに向かう子ども達の育成を目指して取り組んでいきたい。

2. GIGA 第1期の総括

端末及びネットワークの整備に関しては、昨年度までに「1人1台の端末の配布」「学校内のネットワークの構築」「持ち帰りに際しての家庭との連携」など概ね整備はできている。課題としては、端末整備後5年以上経過し、更新時期を迎えているということ、学校におけるほぼ全ての資料、ファイルが校内のサーバに入れていること、それをどのようにクラウド化するか等が挙げられる。次期購入機種や台数を検討しできるだけ速やかに切り替えていきたいと考える。

実践に関しては、ICT の活用において教師の指導力の差があることがまず挙げられる。学校の「特色ある取組」の一つに「ICT 活用」を掲げているが全職員への丁寧で有効な研修等は十分行われていない。そのため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業のあり方を研修テーマにして取り組むことを勧めていきたい。そうすることにより自ずと ICT の活用にも取り組むこととなると考える。

3. 1人1台端末の利活用方策

全ての教育活動において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を念頭に置きながら活動を進めていきたい。

授業の中では、ICT 機器は「文房具」の一つであることを再認識し、より手軽に壁なく使える環境を整える。授業によっては今までの教師からの伝達という形とは全く違う授業形態も取り入れていく必要がある。

遠隔授業に関しては、離れた学校と繋ぎ、ただ紹介し合う、何かを見せ合うといっただけの授業ではなく、自分が知りたいことを調べるため、あるいは今の情報を得るために今まで以上にアクティブに ICT を活用させたいと考える。

家庭学習においては、ドリル学習も含め、より 1 人 1 人に合った難易度の問題が提供されるよう、AI 教材などの活用も考えていきたい。